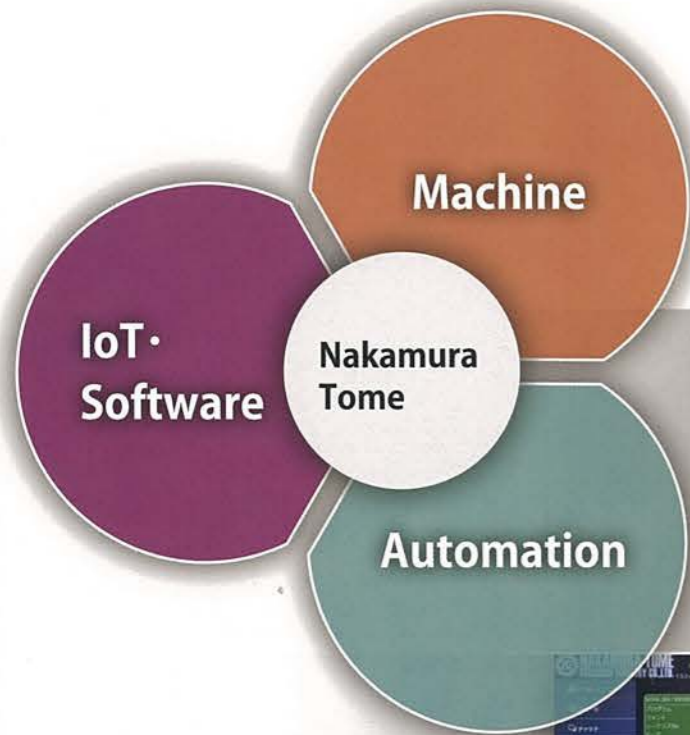


特集

MECT2019いよいよ開幕!

3つの世界一を目指す

Creating innovation in 3 fields



人に知恵 現場に技 152



セイワ

代表者: 加藤正和社長
従業員: 65人
本社: 愛知県西尾市長縄町井ノ元10-1
http://www.seiwa-1.co.jp



複合加工のトップブランド

中村留精密工業株式会社

http://www.nakamura-tome.co.jp/

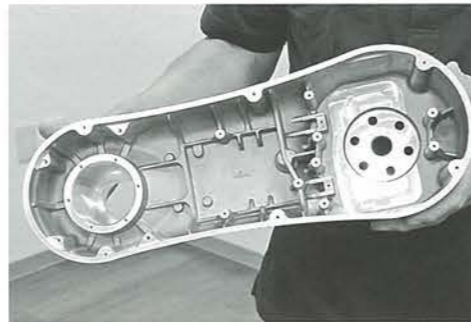
MECT2019
ブース No. | 3D-08

小粒でも凝縮された会社に 試作・少量生産を価値に仕立てる

自動車や産業用ロボットの部品加工を担うセイワは、複雑形状のアルミ鋳造品の切削加工を得意とする。最近では「試作・少量生産を価値に仕立てる信頼のパートナー」をキーワードに、多品種少量の仕事に力を入れる。試作品のほか、大手企業で量産を終了した補給部品の受注もある。顧客の困り事に手が届く会社になるには、規模の必要な量産ではなく試作品などの少量生産が必要と考える。「大きく広げて薄まるより、小粒でも中身が凝縮された会社になりたい」と加藤正和社長は強調する。

「鋳造品の切削加工」って

鋳造は溶かした金属を型に流し込み冷やして固める加工法を指す。鋳造品は型から取り出した後、切削による仕上げや穴開け加工を必要とする。冷却時に残留応力が発生するため、むく材の削り出しに比べて、加工中に変形しやすい。そのため、極力変形の少ない加工工程を組み、専用のジグも用意する必要がある。セイワも、製品に応じてジグを完全内製化している。



■ 前ページの写真

- ① ② ①多品種少量生産の部品加工に力を入れる
②鋳物加工用にジグを内製する
- ③ ④ ③眼鏡関連機器の組み立てを請け負う
④セイワ外観

「部品加工単体からユニット品の組み立てまで引き受けられるようにしています。」

(加藤正和社長)



多品種加工で困り事を解決する

今年で創業50周年を迎えるセイワは、自動車のエンジンや足回りの部品、産業用ロボットのベースやアーム部分などの加工を手掛ける。アルミ鋳造品の切削加工に長年取り組んでおり、最適な工程設計を立てたり、ワーク形状にあったジグを内製するなど、生産前の準備に強みを持つ。

加藤正和社長が2016年に社長に就任してからは「顧客の困り事を解決する」との考えで、量産部品よりも、試作品や、大手企業で量産を終了した補給部品などの多品種少量生産の仕事を意識して引き受けられるようになった。特に補給部品は、数量は出ないものの故障などが起きた時に必ず必要になる部品のため、引き合いも増えつつあるという。「一つの製品の『ゆりかご(試作品)から墓場(補給品)まで』受けられるようなイメージ」と加藤社長は昔の英国のたとえを使う。

現在でも月産3000個ほどの量産加工も引き受けるが、セイワの長年培った加工技術やノウハウを生かすには、少量生産のほうが向いているという。同じものをいかに早く加工するかよりも、一品ずつ加工方法が違いゼロから工法を考える方が、セイワの人材や事業規模に適していた。「会社規模を大きくして加工量を増やすよりも、お客さまの困り事を解決できる力を持った加工の内容で勝負したい。小粒でも中身が凝縮された会社でいたい」と加藤社長は話す。

「客を頼る」より「頼られる」会社に

セイワは精密加工の他に、精密機器の組み立てを事業の柱に持つ。部品の調達から組み立て、出荷までを担う。

眼鏡関連機器の委託組み立て事業を1999年から始めた。各種部品を効率よく正確に組み立てる技術だけでなく、1000点以上の部品管理、ちりやほこりを極力排除した清潔な環境づくりを約20年磨いてきた。

「精密切削と組み立て。2つの事業を持っているのに、自社の強みとして生かし切れていない」。加藤社長がそう話すように、現状は2つの事業は別々で活動する。そこで加工と組み立てを合わせ、より付加価値の高いユニット品の提供を目指す。設計や開発をするわけではないため、あくまでも顧客の要望に合わせて製品を形にする。部品加工から周辺機器の調達、組み立てを一貫して引き受けることで、事業領域を広げる考えだ。

試作品や補給部品の少量生産の加工技術をさらに磨き、部品単体でもユニット品でも提供できるようにすることで、顧客の要求に柔軟に応える。「お客さまの依頼を頼りにする会社ではなく、逆に課題や困り事を解決できる、頼られる会社を目指す」と加藤社長は意気込む。

将来は自動車やロボット以外の業種の依頼も引き受けるつもりだが、急いで広げるつもりはない。「まずは今ある仕事に集中する」。例えばロボットでは、さまざまな機種や企業があるため、その市場の中でより深い仕事を受けられるよう、必要なノウハウの習得や顧客との関係構築に力を入れる。

(渡部隆寛)

取材記者より

加藤社長が社長に就任して3年半。「セイワのかしを切るうえで、引き継ぐべきことは」と聞くと、会社の理念と即答した。「セイワは『誠意』と『和』を合わせた社名で、この2つの言葉はこれからも忘れてはいけない」と話した。時代の変化や企業規模に合わせ、人材や環境、事業内容などは変わる。ただし、最後まで変わってはいけないのは従業員一人一人の気構えであり、その会社の理念なのだろうと、加藤社長の言葉を聞いて感じた。